

愛媛大学大学院連合農学研究科設立30周年記念式典 祝辞



脇口 宏 高知大学長

只今ご紹介いただきました、高知大学の脇口でございます。

愛媛大学大学院連合農学研究科設立30周年の記念式典が、このように盛大に、また格調高く開催されますことに、まずお祝い申し上げます。

一言で30年と申しますと、人間で言えば、「30にして立つ」ということばがあるように、これからこの連合大学院は、自分の力で更に前に進み、世にその真価を問わなければいけない時代になったのだと考える次第であります。

この30年という長き年月を思い起こしますと、30年前は、私が助教授、今で言う准教授になるか、なる前の年だったと思います。その当時のことを思い起こしながらこの連合大学院の30年と私自身の過去を重ね合わせますと、非常に感慨深いものがございます。この長い30年の間、本大学院の発展にご尽力された愛媛大学の関係者の皆様に、心から敬意と御礼を申し上げます。

もちろん、構成大学の一つとして、香川大学、高知大学も、本大学院の発展のため、協力を惜しまずに努力してきた成果でもあると、私自身誇らしい気持ちで今、話をさせて頂いている次第でございます。

この30年間で千人を超す研究者に学位を授与したということが、この大学院の教育と研究の質が如何に高いかということ、如実に表していると思います。また、今日お出でになっているご来賓、或いは記念講演をしてくださる方々のように、世界を股に掛けて御活躍されている修了者がたくさんいらっしゃるということも、この大学院がいかに良い教育と研究をし、研究の質の高さを誇ってきたかということの現れであると考えています。

ただ、最近我が国の大学院は大学院生の確保と基礎的な研究をする研究者の育成に苦慮しています。これは、一つは社会的な価値観の変化によるものであり、一つは、国と社会が基礎的研究や研究者を大切にしていなかったことによる必然的結果であると考えておりますけれども、実はもう一つ、これは私共大学人が大学院で研究することの意義、そして大学院で教育・研究を受ければ、どれほどすごい能力を修得することができ、卒業後、社会でどれだけ活躍できるかということ、社会に、そして産業界に、強く訴え、共通の価値観を構築する努力を怠ってきたことのつけもあるのだと、私は考えております。幸い、この連合大学院では、入学者が確保されておりますけれども、今後、私共はお互いが、3大学だけではなくて、大学人全体が大学院に進んで研究することの意義を、声を大にして社会に訴えていかなければ、大学院、或いは我が国の研究というものが、留まるところ無く衰退していく、また、そういう危険性を含んでいる時代でございます。

これからも愛媛大学大学院連合農学研究科の構成員として、四国は一つという意識のもと、或いは、3大学の「三本の矢」の一本として、本大学院の発展に貢献する覚悟をお示ししまして、私の祝辞とさせていただきます。

本日は誠に、おめでとうございます。

平成27年10月31日

高知大学長 脇口 宏